

県木協だより

編集発行 宮城県木材協同組合
仙台市青葉区東照宮一丁目 8-8
TEL 022-233-2883
FAX 022-275-4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp
URL:http://www.miyagi-wood.jp/

謹賀新年



最適県産木材供給の
仕組み創造の一年に
理事長 千葉基

新年おめでとうございます。

昨年もコロナ禍で組合活動がかなり制約されました。組合員の皆様には失礼ばかりで申し訳なく思っています。

コロナの影響が木材にも及びウッドショックの一年となり、納材などの日常業務にも支障が出ました。世界的に木材価格が高騰し、輸入材入荷が減少して、国産材の流通と価格が増大しました。九州産スギ丸太価格などは大きく上昇しました。

これらの事から宮城県の水産林政部が中心になり、三回にわたる「県産木材の安定供給に関する意見交換会」が開催されました。その中での「山元から最終消費者へシームレスに情報共有できるサプライチェーンの構築が必須」という意見は正にその通りだと思います。この情報共有が難しい事です

板製造、流通、設計、建築（在来、2×4）、学識経験者、行政など多様な方々が一堂に会し、真摯に討議をしています。この難局を打開し宮城県産材活用の仕組みを作り上げるチャンスにしようという情熱をヒシヒシと感じる会議となっています。

ご参加の皆様、関係する県職員お一人お一人に心から敬意と感謝を申し上げます。

業界間相互に情報が共有され、効率的な県産材の活用が進む状況ができたとしても、「建築」という経済行為が中心にある限り、その収益配分は「至難の業」であり、業界間の対立も起こり得るでしょう。

その対策としてはCN（カーボンニュートラル）に対応する環境対策としての県産材活用の要素をしっかりと入れる事だと思えます。環境税（国・県）を活用して、現在ある制度を拡充し、県産材利用建築物に対する助成をしっかりと行います。景気が低迷して建築着工数が減少する局面では助成の増額も必要でしょう。この環境税による県産材活用推進が、必ずや安定的な伐採・造林につな

がりCO2削減に寄与すると思えます。

県産材活用のボトルネックとしては、県産スギ材の横架材への活用推進、県産材合板の生産拡充、2×4部材の生産、乾燥などが考えられます。

また、県民が喜んで参加するコストを抑えた森林管理とCO2削減に資する伐採・造林の仕組み、カーボンクレジットの活用、公共建築物への採用促進と入札における利用貢献ポイントの導入などが考えられるでしょう。

これらの課題を乗り越え、前途洋々たる宮城県の林業・木材加工業、建築業の輝かしい未来を心から祈念して、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶



宮城県水産林政部
林業振興課長

中村 彰 宏

明けましておめでとうございます。

宮城県木材協同組合組合員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、本県の森林、林業、木材産業行政の推進につきまして、日ごろから格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年の世界的な新型コロナウイルス感染症拡大と輸入木材の不足による木材価格の高騰、いわゆるウッドショック等の影響により、県内の林業・木材産業においても大きな影響が生じていると認識しており、今後とも素材や製材の需給状況や価格の動向を注視しながら、県産木材の需要拡大に向け、必要な対策を講じてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、森林は、木材生産のみならず、水源のかん養や地球温暖化防止等の公益的機能を有することから、健全で持続性の高い森林を維持していくことは、県民の安全・安

心に繋がるものであります。

また、本格的な利用期を迎えた森林資源を基盤として、林業・木材産業が活力あふれる循環型産業へと成長・発展していくことが、SDGs推進の観点からも重要と考えております。

本年三月で東日本大震災発生から十一年となり、本年度より新たな県政運営の方針である「新・宮城の将来ビジョン」がスタートしております。林業・木材産業が、将来にわたり持続可能で成長する産業へと発展していくよう、「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」に基づく施策を着実に推進するとともに、ICT等の新しい技術の導入による「スマート林業」や、CLT等を活用した新たな木材需要の創出などの取組を一層強化してまいります。

併せて、昨年十月一日より施行された「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、基本方針等の対象をこれまでの公共建築物から民間の建築物を含む建築物一般に拡大して、建築物の木造・木質化を進めてまいります。

更に、今後本格的な人口減少社会を迎える中、成長産業化を牽引する担い手の確保・

育成を目的に、本年四月に「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」が開校されます。

県では、これらの取組を通じて、若い世代が安心して就業でき、働きがいを持てる就業環境を、整備してまいりたいと考えておりますので、貴組合の皆様のお力添えを賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

結びに、未だ日本経済全体が大変厳しい状況ではありますが、宮城県木材協同組合の益々の御発展と、組合員の皆様の事業御繁栄を祈念申し上げます。年頭に当たっての挨拶といたします。

「気仙沼地域における木材利用の取組」

宮城県気仙沼地方振興事務所

当管内は、気仙沼市及び南三陸町の一市一町を所管し、森林面積は約三万六千haで民有林の占める割合が高く、人工林率は県平均の五十四%を大きく上回る六十三%となっており、公有林を中心に森林整備が進んだ地域となっております。

南三陸町の「南三陸森林管理協議会」は、県内で初めて森林の国際管理基準に基づく森林認証（FSC・FM認証）を取得し、持続可能な林業を目指して活動を行っておりますので、その内容を紹介いたします。

南三陸森林管理協議会では、FSC認証取得から五年経過後に必要となる更新審査を令和二年度に受検し、継続認証を得ることができました。同協議会は、複数の森林管理者が国際基準と照らし合わせながら南三陸地域の林業について協議する場として創設され、認証当初は、六団体の会員で構成されていましたが、現在は九団体となっております。認証面積についても一、三・四haだったものが二、四八・一haに拡大しており、令和七年までに三千haにすることを目標としております。

FSC認証材（適切に管理された森林から伐り出された木材）の使用量が規定された条件を満たす形で造られた建物等に与えられる「FSC全体プロジェクト認証」を取得した公共施設として、町内には「南三陸町役場新庁舎」（平成二十九年完成・全国初の認証施設）と平成三十一年に完成し、国内における認証施設の二例目となった「南三陸町生涯学習センター」（木材使用量九一六立方メートルの全てに南三陸町産材を使用）があり、さらに新築の戸建て住宅の「南三陸杉



生涯学習センター

の家」（木造二階建て、使用木材約六十二立方メートルのうち九十八％に認証材を使用）においても全国で初めてとなる認証を取得しております。

また、県補助事業の活用により、山に新しい価値を見いだし、その価値を高めるためのFSC認証商品として、南三陸杉の端材と自生するクロモジの香りを抽出したルームスプレアの開発や認証材の普及PR用機材一式の導入を行うとともに、町内で木工品等の製作・販売を行っている南三陸YES工房が令和二年度にCOC認証を取得し、同協議会へ参入したことにより、木育に対しても積極的に取り組んでおります。

今後は、木材の需要と供給の情報をリアルタイムで知ることができるブロックチェーンを活用した新しい木材流通の検討も進めており、県としましても更なる支援を継続してまいります。



木組み体験（木育）



開発したルームスプレー

『第二十三回みやぎ木造住宅コンクール結果』

県内各地から応募作品が寄せられ厳正な審査の結果次のおり表彰されることになりました。

なお、入賞作品は木造住宅コンクール写真集として発行しております。

施主市町 ・ 施工者 ・ 設計者

最優秀賞 宮城県知事賞

仙台市 ・ (株)サステイナライフ森の家 ・ アトリエ森の舎



最優秀賞



優秀賞 宮城県木材同友会会長賞

松島町 ・ タカハシ建築工房style(株)

優秀賞 宮城県建築士事務所協会会長賞

仙台市 ・ (株)創建築 ・ 同

優良賞 宮城県建設職組合連合会会長賞

石巻市 ・ アット・ホームおおもり

・ 一級建築士事務所工作舎

優良賞

角田市 ・ 共栄ハウジング(株) ・ (有)ササキ設計

特別賞

多賀城市 ・ (株)森のめぐみ工房 ・ 同

表彰式は、二月二十六日にホテル白萩で開催する予定です。

叙 勲
旭日双光章（十月十五日）

理事 村井 八郎 様

長年のご功績と、その支えとなられた
ご家族の皆様にご敬意を表します。

村井様は十月十五日に逝去されました。

栄えの受賞

令和三年文化の日表彰（十一月一日）

産業功労

元理事 渥美陽 一様



誠にありがとうございます。

新組合員の紹介

(株)バス・フォレスト（仙台市青葉区）

代表取締役 武者 富士夫

十月二十六日加入

素材生産業・木材流通業・オガ粉製
造業・チップ製造業

(株)里山林農元気村（登米市登米町）

代表取締役 竹内 信 男

十一月十九日加入

素材生産業

どうぞよろしくお願いいたします。

STOP! 冬の転倒災害

事業場で取り組む転倒対策

今すぐ	降雪・寒波予報時	積雪時
<input checked="" type="checkbox"/> 凍結危険箇所の把握 雪が踏み固められて凍結しやすい駐車場、屋外通路、建物出入口など事業場敷地内の危険箇所を把握しましょう	<input checked="" type="checkbox"/> 通勤・帰宅への配慮 労働者が安全に出勤・帰宅できることを優先し、必要に応じて勤務時間を柔軟に変更しましょう	<input checked="" type="checkbox"/> 危険箇所の凍結防止 把握した事業場敷地・建屋内の危険箇所の除雪、凍結防止対策（融雪剤、砂の散布等）を徹底しましょう
<input checked="" type="checkbox"/> 凍結危険箇所の見える化 把握した危険箇所は表示や危険マップで「見える化」をしましょう	<input checked="" type="checkbox"/> 転倒防止マットの設置 建物出入口には雪や水分を拭き取るためのマットを設置しましょう	<input checked="" type="checkbox"/> 4S（整理・整頓・清掃・清潔）の徹底 建物内出入口付近や通路等の水濡れはすぐに拭きましょう

通勤・外出時の転倒対策

STEP 1 転びやすい場所を知る

徒歩であっても油断は禁物。以下の場所では雪が踏み固められ、特に滑りやすくなります。

横断歩道

白線は氷の膜ができやすいので歩かない

バスの乗降場所

乗降は手すりにつかまり慎重に



マンホール・側溝のふた

きちんと足元を見て回避!



駅やお店の出入口付近

建物内外の出入口付近は転倒多発地帯

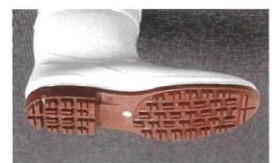


STEP 2 転びにくい歩き方を知る

滑りにくい靴をはく

革靴、ハイヒールは危険です。柔らかいゴム底や、溝の深い靴（※）を着用しましょう。

※溝に雪が詰まると滑るので注意!



ゴム底靴

小さな歩幅でゆっくり歩く

小さな歩幅で、足の裏全体で着地し、ゆっくりと歩きましょう。そのためには時間に余裕をもった行動が不可欠です。

両手はあける

ポケットに手を入れたり、両手に物を持っていると、バランスを崩しやすく、転倒時に受け身がとれません。手袋を着用すれば転倒時の手の保護にもなります。

モクコレ2022に出展

東京都が主催する国産木材の展示商談会モクコレが二月一日（火）、二日（水）に東京ビッグサイトで開かれます。各都道府県と東京都が連携して日本各地の建材や什器等木材製品を普及PRするもの。本県でも当組合が支援して、宮城県CLT等普及推進協議会などが出品します。上京の際は、ぜひお立ち寄りください。

林野庁 モクレポ創刊

林野庁では木材需給・価格・産業などのデータを一元的に届けるため「林産物に関するマンスリーレポート モクレポ」を昨年十月に創刊しました。毎月、中旬に公表されますので「林野庁 モクレポ」で検索。

一昨年の年初にはコロナ思わず、昨年年初はウッドショック思わず。今年は何があるやら。社会生活、木材業界の激変が続きます。が、確かなことの一つは、日本の山には木があること。私たちはこれを賢く使うことが使命。来年には木造衛星も打ち上げるとか。未来の文字は木でできている。(好)